

義援金、寄付金

熱い支援に感謝

寄せられた義援金

1,152 件
8,936 万 1,451 円
(8月10日現在)

全国各地から義援金、寄付金が寄せられました。ご支援ありがとうございます。

7月11日～8月10日受付分
(敬称略)

義援金

■県外■

【東京都】 ▶五味秀春 ▶庄司正義

【神奈川県】 ▶神林洋行

■口座振替等■

【個人】 ▶イワブチ ヤスジ

【その他】 ▶匿名1件

寄付金

■県外■

【その他】 ▶匿名1件



認定書を手に見せ認める出席者ら

11番目の自主防を認定

訓練で防災意識向上を図る

8月1日、新井田地区自主防災委員会(弥藤栄悦委員長)が発足。11番目の自主防災組織として市の認定を受けました。この日市役所で行われた交付式には、同会から4人が出席しました。

弥藤委員長は「年に1回以上は防災の訓練を行い、地域住民の防災意識の向上を図りたいです」と今後の活動へ力を込めました。

市内の5郵便局と見守り協定

NEWS 安心、安全と福祉向上へ



協定書を手に見せ認める出席者ら

7月26日、市は市内にある日本郵便株式会社の郵便局と、高齢者などの見守りに関する協定を締結。市役所で行われた調印式には各郵便局の局長ら5人が出席しました。

調印を終え、山内隆文市長は「郵便配達など日常業務の中で見守りを行っていただければ、集配や渉外活動の際、郵便受けにたまっていく郵便物や、応答がないなどの異変を配達員が見つけた場合、郵便局を通じて福祉事務所に連絡をします。また、現場の状況から緊急性が高いと判断した場合は、警察や消防へ通報することもあります。」

この見守り活動は、盛岡市や宮古市など県内7市町で行われています。

久慈郵便局の佐々木満局長は「私たちは日々、市内をくまなく回っています。協定を通じて、住民の安心・安全・福祉の向上に努めていきたいです」と話しました。

協定を締結したのは、市内全域に郵便物の配達を行っている久慈、宇部、侍浜、山根、陸中山形の5郵便局。協定では、集配や渉外活動の際、郵便受けにたまっていく郵便物や、応答がないなどの異変を配達員が見つけた場合、郵便局を通じて福祉事務所に連絡をします。また、現場の状況から緊急性が高いと判断した場合は、警察や消防へ通報することもあります。

大相撲春日野部屋が市内で2年ぶりの夏合宿

NEWS 暑い稽古と温まる交流



愛山荘の入所者と握手をする若乃関たち

8月13日～18日までの6日間、山形町出身の二十山仁親方(元小結栃乃花)の所属する大相撲春日野部屋は、市で2年ぶりとなる夏合宿を実施し、同部屋の力士約30名が参加。稽古の間には市民との心温まる交流も行いました。

合宿の初日、力士たちは、山形老人福祉センターで一般参加者とちゃんこ交流。その後、二十山親方と栃乃関(とちのつか)が隣接する特別養護老人ホーム愛山荘を訪れました。入所者から熱烈な歓迎を受けた力士たちは最高齢の入所者を「お姫様抱っこ」。また、入所者とじゃんけん大会を行い、勝った人に力士の手形とサイン入りの色紙をプレゼントし

ました。交流の最後には、力士と入所者全員が握手。力士の大きな手に触れた入所者は感激していました。

15日には久慈川河川敷ゲートボール場で出稽古。6時30分から始まった朝稽古には、力士を間近で見ようと100人以上の人が集まりました。

暑い日差しが照りつける中、激しくぶつかり合う力士たち。その迫力と音に観覧席からは「おーっ!」と驚きの声が上がりました。

見学した大畑秀子さん(寺里)は「近くで見るとテレビでは迫力が違いますね。力士たちには、上を目指して稽古に励んでほしいです」と声援を送りました。

久慈川河川敷での出稽古でぶつかり合う力士

久慈広域消防団水防訓練を実施

NEWS 水防の強化に努める



土のうを積み消防団員ら

7月28日、平沢空中消火基地で久慈広域市町村消防団水防訓練(県消防協会久慈地区支部など主催)が行われ、管内各市町村の消防団員と久慈広域連合消防職員など約130人が参加しました。時折強い雨が降る中、「積土のう工法」と、河川堤防のり面の崩れを防ぐ「シート張り工法」の訓練を実施。洪水や高

潮の時に浸水被害を最小限に抑える知識と技術の向上に努めました。

積土のう工法訓練では、ビニールシートと土のうを使い、増水が堤防を超えないようにする方法を久慈消防署員が説明。消防団員は重さ約25kgの土のうを積み方向に注意しながら、手際よく積み上げていきました。また、シート張り工法訓練では、水防専門家の井上博泰氏が鉄パイプの結束方法などを説明。参加者は注意点などを確認していました。

県消防協会の明戸実久慈地区支部長が「ゲリラ豪雨など、災害はいつどこで起こるかわかりません。習得した技術を、ほかの団員にも周知し、水防強化に努めてほしい」と呼び掛けました。

和風アロハシャツ「くじあろは」の販売を開始

NEWS かすりのアロハで復興支援



サイズは子ども用の120号と、S～LLまで用意

市内で縫製業を営む久慈ソーイング(中田利雄代表取締役)と、繊維資材卸売業者のシラカワ盛岡営業所(阿部光弘所長)は、復興支援商品として和風アロハシャツ「くじあろは」を企画。8月10日から販売を始めました。

「くじあろは」の生地やボタンなどは国産の資材を使用。北限の海女が着用するかすりはんてんをモチーフに、全体に桜の花柄がちりばめられたアロハシャツです。胸元のポケットには「じえ!じえ!じえ!」と書かれたタグが縫い付けられ、あまちゃんの口ぐけ久慈で作られたことをさりげなくPRします。

東日本大震災後、中小企業

基盤整備機構の支援で建設された久慈ソーイングの仮設工場では、縫製作業の様子

シラカワ盛岡営業所の小谷地忠志副所長は「震災で大きな被害を受けた久慈ソーイングと久慈市に何か支援をしたという気持ちを感じました」と思いを熱く語りました。また久慈ソーイングの中田社長は「地域の活性化にもつながってほしいです」と展開に意欲を見せました。

シャツは、小袖海女センター周辺や市内の衣料品店、やませ土風館などで販売され、価格は税込み3800円。売上金の一部は復興支援金として、市に寄付されます。